令和２年度「東国文化自由研究」

研究テーマ

Ⅰ.桐生市の古墳

Ⅱ.桐生市に大型古墳がなかった理由

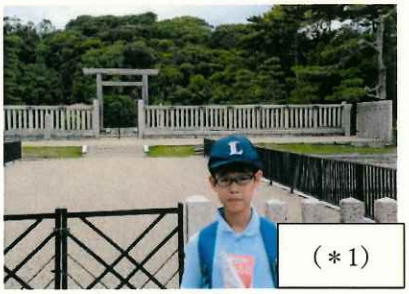
Ⅲ.桐生市の鉄製遺跡について

祝！国宝決定
おめでとうございます

桐生市立中央中学校　１年

宮崎　俊

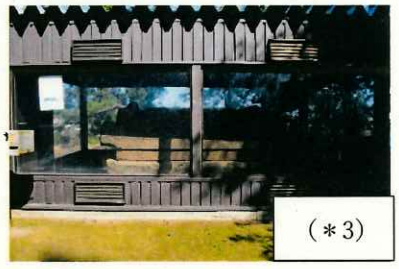
はじめに


(＊1)

昨年、私は世界遺産に登録された、大阪府にある、百舌鳥・古市古墳群の中の仁徳天皇陵古墳（＊1）に行った。その時に初めて古墳の勉強をし、古墳の壮大な大きさに驚き、古代の人々の古墳を作る技術に感動して、古墳について興味を持った。

私は、古墳は畿内だけに多くあるのかと思っていたが、群馬県には現在約２千基の古墳が残っている。調査では、13,249 基の古墳があったことが確認された。古墳時代の群馬県は、東国文化の中心地であった。太田市には、東日本最大の太田天神山古墳（＊2）が現存する。伊勢崎市にあるお富士山古墳には「長持形石棺」（＊3）がある。ヤマト王権との関わりが深かったことが想像される。また、県内一大きい玄室を持つ綿貫観音山古墳（＊4）を見学した。県内の古墳を調べていくと、畿内の古墳群のように、かつて群馬に栄えた東国文化は先進的な文化であったことが分かった。

(＊2)


(＊3)

(＊4)

(＊5)：東国文化副読本より

県内の古墳(＊5)について調べていくと、赤城山南麓や、伊勢崎市から佐波郡、前橋市にかけて、榛名山南麓の群馬郡、太田市、藤岡市と多野郡の神流川、鮎川周辺などは特に数が多い。畿内に見られるような前方後円墳、巨大古墳もあり、大きな勢力を持った氏族がいたと考えられる。

一方、私が住む旧桐生市域（以下：桐生市）には、大型の古墳や前方後円墳がないことに気がついた。なぜだろうか？力を持った豪族がおらず、村（集落）が、栄えていなかったのだろうか？桐生市内を流れる渡良瀬川の影響や、まわりを山々で囲まれている自然環境の影響があるからだろうか？また、ヤマト王権との関係がなかったのか？古墳時代の桐生市に思いをはせながら、古墳や遺跡について調べていくことにした。

調査方法

・桐生市史などの郷土史の本や資料を使って調べた。

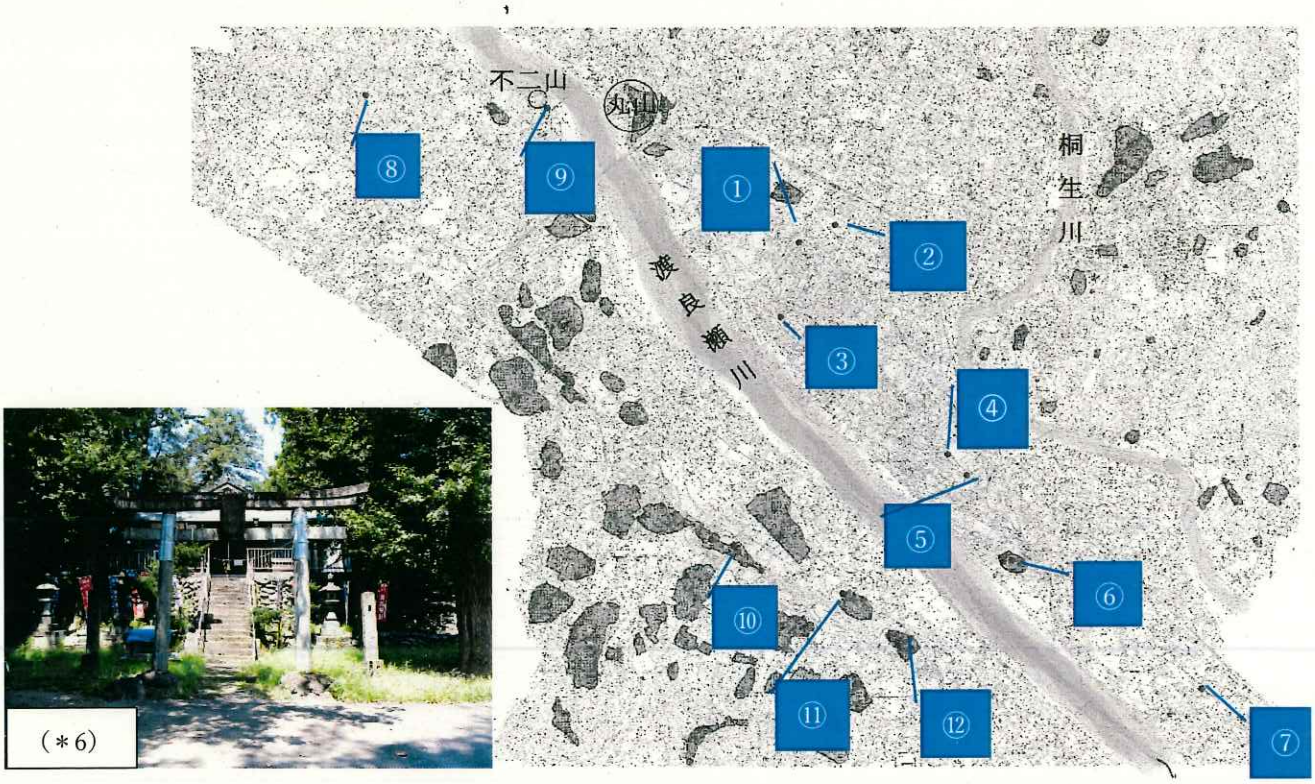
・現存する桐生市の古墳や遺跡を見学した。
・インターネットを利用して、古墳遺跡分布図などを調べた。
・専門職の学芸員の方に教えていただいた。

Ⅰ．桐生市の古墳

Ⅰ-①　古代人は知っていた？！古墳を構築する場所を・・

桐生市の古墳は、24 基確認されている。この古墳を築いた人々の住んだ集落は、6 ヶ所発見されている。特徴的なことは、渡良瀬川の両岸に相対するように点在しており、古墳の分布に興味を持ったので、詳しく調べてみた。

「歴史探訪　桐生とその周縁」によると、渡良瀬川の岸に近接して右岸（広沢地区のうち間の島方面）、左岸（新宿地区）に点在している。渡良瀬川の両岸に自然堤防地形となっており、その後背部に湿地帯があり、原始農耕の適地であったようだ。自然堤防とは、河川によって運ばれた砂が、河岸に堆積してできたものだ。自然堤防の高さは、１mから 2m前後だったようだ。この 1mの高低の差が、生命と財産の安全を保障することを、古代人は知っていた。この自然堤防の上に古墳が構築され、村落もこの地帯に営まれていたようだ。



（＊6）

①　十ケ塚古墳	②　浄運寺開山塚古墳	③　三ツ塚古墳	④　稲荷塚古墳
⑤　戦争稲荷塚古墳	⑥　加茂神社塚古墳（＊6）	⑦　長者塚古墳	⑧　愛宕神社社内古墳
⑨　不二山古墳	⑩　富士見ヶ丘３遺跡	⑪　三丁免石塚古墳	⑫　塚越古墳

Ⅰ-② 桐生市にはどのような古墳があるのだろうか？

桐生市の古墳は、西暦 6 世紀代末から 7 世紀代にかけて構築された。古墳時代の後期に構築され、大型の古墳ではなく、ほとんどが直径 10～12mの小円墳であることが分かった。⑥加茂神社古墳からは、金銅製の環頭太刀飾りや附埴輪女子像などが出土している。⑦長者塚古墳では、石室が確認されている。④稲荷塚古墳、⑩富士見ヶ丘３遺跡では、墳丘に埴輪円筒列をめぐらし、外観に力を尽くしている。

◆渡良瀬川左岸（新宿地区）の古墳

地図番号	古墳名	場所	種別	高さ（m）	直径（m）	現状	備考
①	十ケ塚	錦町１丁目	円墳			有	
②	浄運寺開山塚	本町６丁目	円墳			有	
③	三ツ塚	錦町２丁目	円墳	3	12-13	消失	・頭椎大刀装具（国立博物館所蔵）出土
④	稲荷塚	新宿３丁目	円墳	2.5	12-13	消失	・墳丘に埴輪円筒列をめぐらしていた ・鉛ガラス玉４点出土
⑤	戦争稲荷塚	新宿３丁目	円墳	3	10	消失	
⑥	加茂神社塚	境野町３丁目	円墳	3.5	17-18	有	・桐生市域内で最大の円墳 ・出土品：還頭太刀、附埴輪女子像が市指定文化財
⑦	長者塚	境野町７丁目	円墳	2-3	10	有	・桐生市域で唯一石室が確認できる

◆渡良瀬川右岸（広沢地区のうち間の島方面）の古墳

地図番号	古墳名	場所	種別	高さ（m）	直径（m）	現状	備考
⑧	愛宕神社社内古墳	相生町２丁目	円墳			有	
⑨	不二山古墳	相生町１丁目	前方後円墳？			消失	・形象埴輪出土（桐生市保管）
⑩	富士見ヶ丘３遺跡	広沢町２丁目	円墳			有	・平成 19 年度１基、平成 24 年度１基、合計２基の円墳を確認 ・円筒埴輪列を確認
⑪	三丁免石塚	広沢町４丁目	円墳			消失	
⑫	塚越古墳	広沢町４丁目	円墳			有	・平成 22、24 年度発掘調査で 3～4 基の円墳確認

Ⅱ．桐生市に大型古墳がなかった理由

Ⅱ-①　畿内とつながる古代東山道から少しはなれているから？

▲ 古代東山道の駅路

（＊7）：東国文化副読本より

桐生は、古代東山道の駅路から離れているところに位置する。古代東山道の駅路（＊7）は、新田駅から２つに分岐していた。１つは栃木県（下野国）に向かう道、もう１つは埼玉県（武蔵国）に向かう道である。新田駅は、太田市にあり、県内最大の前方後円墳太田天神山古墳が在る。長持形石棺も出土している。このことにより、大和朝廷との関わりが深い関係、交流があったと想像する。当時、駅路のジャンクションだった太田市は、栄えていた都市だっただろうと思われる。少し離れた桐生には、力を持った豪族がいなかったのではないかと考える。

Ⅱ-②　山と川の影響？

「桐生市ＨＰ」によると、桐生市は、群馬県の東部で栃木県と接している。関東平野の北端で足尾山地から派生する山々によって囲まれている。このような山々に囲まれた地形は、山への狩猟や木の実の採集を生活の主とした、縄文時代に適している。しかし、稲作が主となった弥生時代や古墳時代に、桐生市の地形は水田に向いていなかったと考えられている。一方、近隣の太田市や伊勢崎市は、桐生よりも、地下水が豊富で、広大な平野があり水田に適した地形であるので、集落などができやすかった。

「桐生市史」によると、桐生市を流れる渡良瀬川は、洪水ごとに主流を変更し、災害をもたらしていたようだ。氾濫が多い、不安定な土地であったことを想像する。桐生市に大型の古墳がみられないのは、このような地理的要因が影響していたのではないかと推測する。

Ⅱ-③　円墳が構築されていた時代だったから？

桐生市に大型の古墳が少ないのは、桐生市に古墳が構築されるようになった時代が、古墳時代後期（6世紀～7世紀）だったからと考える。群馬県は古墳の多い県として知られている。東国文化の中心地であり、太田天神山古墳や、浅間山古墳など大きな古墳が多い。そのような前方後円墳などの大型の古墳は、古墳時代前期の４～５世紀に構築された。

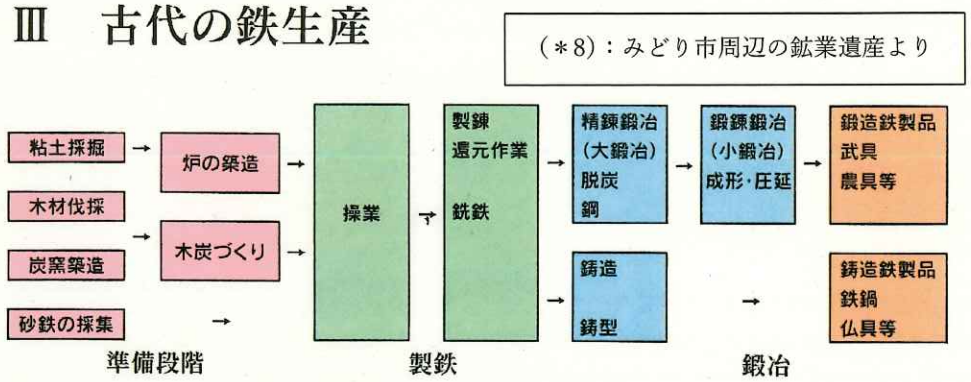
一方、桐生市にある古墳は小規模な円墳である。これらは、古墳時代後期（6世紀～7世紀）に構築されたと確認されている。全国的にも、古墳時代後期は、円墳などの小規模な古墳が構築されている。「國學院大學ＨＰ」によるとその理由は、古墳の価値観が変わってきて、5世紀中旬ごろから後半で超巨大な古墳はなくなったことだ。その後、日本の古墳は、朝鮮半島からやってきた渡来人などから、東アジアの

スタンダードを取り入れるようになり、高さを重視した古墳が増加してきた。桐生市に集落ができ栄えたのは、古墳時代後期だったので、円墳が多く構築されたと考える。

Ⅲ．桐生市の鉄製遺跡について

桐生市の古墳時代を調べ分かったことは、大きな古墳がなく、小規模な円墳が、古墳時代後期（6世紀～7世紀）に構築されたことだ。古墳時代以降の桐生市の歴史について調べていたら、奈良時代の桐生市は大和朝廷との関わりがあったことが分かった。それは、鉄製遺跡の存在である。鉄製遺跡は、群馬県内でも発見が少なく、特異な例となっている。桐生市の歴史において注目すべき事だと思い調べた。

Ⅲ-①　古代の鉄生産の工程は？

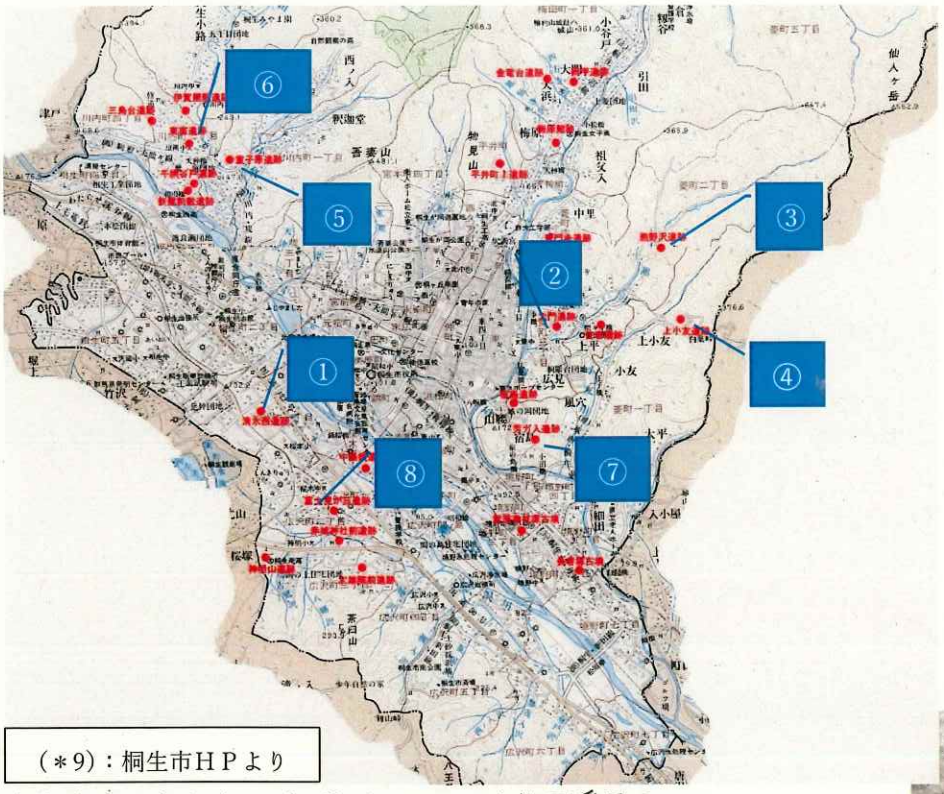


古代の鉄生産について「みどり市周辺の鉱業遺産（＊8)」を参考に調査した。製鉄業は、砂鉄や鉄鉱石を原料として、まず製錬から精錬により原料中の不純物を取り除いて鉄素材を作り出す。その後、鍛造や鋳造によって鉄器に仕上げられる。

製鉄炉内で木炭を燃やし、原料である砂鉄や鉄鉱石を投入する工程を製錬という。製錬でできたものは銑鉄と呼ばれ、硬くてもろい。また、製錬だけでは、不純物が取り除けないので、炭素を低減させる脱炭作業を行い、純度の高い鉄を精製する。これが精錬過程である。精錬過程のことを大鍛冶ともいう。この過程で鋼が生成される。小鍛冶と呼ばれるものが鉄製品を作り出す鍛錬鍛冶のことで、鍛打して作られた製品は、軟らかく粘り強い特徴があり、武器や農具に加工される。桐生市の製鉄遺跡からは、鋼が出土している。

Ⅲ-②　古代の製鉄に関わる遺跡について

桐生市の古代製鉄に関わる遺跡（＊9）は、8遺跡確認されている。菱町、川内町、相生町、縮広沢町で発見されている。①清水西遺跡、②大門遺跡、③熊ノ沢遺跡、④上小友遺跡、⑤童子原遺跡、⑥東宿遺跡、⑦芳ヶ入遺跡、⑧富士見ヶ丘2.3遺跡である。



（＊9）：桐生市ＨＰより

◆①清水西遺跡（＊10）（相生町１丁目）地図番号①

桐生市文化財保護課の新井さんの話によると、桐生市に官営製鉄跡が発掘された。渡良瀬川の右岸にある清水西遺跡である。奈良時代（8 世紀中葉）の製鉄に関わる遺構が遺跡としてまとまりをもって発見された。粘土採掘跡、炭窯（8 基）、たたら炉（1 基）、鍛冶工房（住居跡 2 基）、道跡、鉄選別工房（住居跡 2 基）、製鉄に係る一連のものであることが判明されている。

清水西遺跡

写真57　清水西遺跡製鉄炉跡・炭窯跡
（桐生市教育委員会提供）

写真58　清水西遺跡1号住居跡（鍛冶遺構土坑）
（桐生市教育委員会提供）

写真59　清水西遺跡粘土採掘土坑
（桐生市教育委員会提供）

（＊10）：みどり市周辺の鉱業遺産より

Ⅲ-③　桐生市と大和朝廷との関わり

桐生市の古墳時代、大きな古墳がないことに関係して、ヤマト王権や東国文化において大きな関わりがないように推測した。その後、奈良時代末期から平安時代の初期には、鉄生産が盛んに行われた。市内には、製鉄遺跡が確認されている。製鉄遺跡は群馬県内でも発見が少なく、特異な例となっている。

特に鉄の需要が多かったのは、西暦 801 年大和朝廷による東北の蝦夷征伐の時のようだ。坂上田村麻呂がアテルイの戦いに代表される３８年戦争である。東毛地区一帯が大和側の武器、物資、人材の補給基地、中継基地となった。当時の群馬県は、大和朝廷との交流が盛んであったようだ。

桐生市文化財保護課の新井さんによると、「大和朝廷の蝦夷征討

に関係して、青森県で、鉄製品が出土している。その出土品は桐生で作られたものと今は断定できていない。しかし、桐生で作られた鉄製品が使われていたことを想像する。また、清水西遺跡は、官営製鉄跡が確認されているので、大和王権との関わり、交流があったことも想像できる。」と話されていた。私も、大和王権との強い関わりがあったのではと想像する。今後の調査が望まれるし、桐生での鉄製品だったとするのであれば、とても誇りに思う。

終わりに

今回、桐生市の古墳、遺跡について調べていくと、古墳時代後期（6 世紀代末から 7 世紀代）に構築されており小規模な円墳であることが分かった。金銅製の環頭太刀飾り、附埴輪女子像、石棺などが出土されている。渡良瀬川両岸の自然堤防に古墳が構築されていたことを知り、とても驚いた。家の近所に古墳があったことを知り、行ってみると、原型をとどめていないが、少しこんもりしていて円墳の形などが想像できた。

古墳の形は、時代によって変わっていくことを初めて知った。前方後円墳から円墳へ移行したのは、古墳の価値観が変化したためだと分かった。円墳は、朝鮮半島からやってきた渡来人などの影響を受けているようだ。

また、桐生市は鉄製品を通じて、大和王権との関わりがあったことが推測されている。大和朝廷の官営製鉄跡に、製鉄に係る一連のものが出土されたことに、とても驚いた。そのような遺跡が桐生市にあるということをとても誇りに思う。

今回勉強していくなかで、ヤマト王権と東国文化の関わりについてより詳しく調べてみたいという思いが残り、次回の課題としたい。

参考文献

●「東国文化副読本」,群馬県文化振興課/編,2020 年
●「桐生市史　上巻」, 桐生市史編纂委員会/編,1958 年
●「桐生の歴史」,桐生文化史談会,昭和 58 年
●「歴史探訪　桐生とその周縁」,周東隆一/著,昭和 58 年
●「百舌鳥古墳群ガイドブック＝古墳のなぜ？なに？＝」,堺市博物館/編,平成 12 年
●「みどり市周辺の鉱業遺産」,岩宿博物館編,平成 20 年
●「菱の郷土史」,園田芳雄他/著,昭和 45 年
●桐生市ＨＰ
●群馬県ＨＰ
●國學院大學ＨＰ

謝　　辞

●群馬県立歴史博物館　学芸係長　深澤　敦仁様
●桐生市教育委員会　文化財保護課　埋蔵文化係　新井　雅幸様

●桐生市役所職員　増田　修様
●元桐生市役所職員　杉戸　登様、宮崎　富夫様
●桐生市立図書館様
●桐生市立中央中学校　下山　隆史教諭

みなさまにいろいろと教えて頂き、また相談にのってくださり、ありがとうございました。皆さまのおかげで研究をまとめ上げることができました。深く感謝いたします。

一途一心に・・考古学を学び、群馬県立歴史博物館、桐生市文化財保護課で働いている２名の学芸員の方々にお話を伺うことができた。私の質問に、迷うことなく明確に答えて下さった。詳しく説明して頂いて、古墳時代のことが良く理解できた。また、古墳や遺跡を研究する仕事に就いてとても楽しいですと話してくれた。話を聞き終わった時に、「今日、宮崎君にたくさんのことを教えられて良かったです。次は、宮崎君が古墳の事を知らない人に教えてあげてください」と言ってくれた。詳しく教えてくれた学芸員さんの思いを、受け継いだような気がしてとても嬉しかった。

私も歴史に興味があり、特に安土桃山時代が好きだ。以前は、古墳時代についてあまり知らなかったが、今回の東国文化自由研究で、桐生市内の古墳などについて調べていくうちに、すばらしい文化であることが分かった。

学芸員さんの仕事に取り組んでいる姿に、将来の職業についても考える機会となった。2020 年の夏、皆さまとご縁があって出会えたこと、とても嬉しく思う。